

## 今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.19

## カブトムシ・クワガタ

白井中には、様々な生物がごく普通に生息していますが、これは、ある種の人たちからすると、垂涎的（すいぜんのまと と読みます。涎が出るほど欲しいもの の意です。さて、涎は何と読むでしょう？ヒント 赤ちゃんの時はだれでも出ますね。まさか、今も・・・?! 答えは よだれです。）の宝物です。

以前白井中に勤務したことのある先生が、私の異動先を聞き、最初に言った言葉が、「いいなあ、あそこの虫は大きくてすごいんだ！戻りたいなあ〜。」でした。そして、皆さんには当たり前の光景ですが、あの、ごろごろいる「カブトムシ・クワガタ」も、都会では販売されている類（読み方、覚えていますか？たぐい でしたね。）の昆虫です。夏休みに入る前、毎日のように体育科の先生が掃除の時間などに捕まえてきていました。Tシャツにとまらせる姿は、まるでブローチのようです。



さて、「カブトムシ・クワガタ」は、共に夏の覇者、かっこいい昆虫の王様ですが、その生態は、当然ながらそれぞれ違います。まず、その寿命ですが、一般的に、カブトムシの寿命は1年ほど、ひと夏で終わってしまいます。一方、クワガタは、種によって様々ですが、2～3年生きるものもいます。（我が家で飼育したものも2年生きました。）また、幼虫が育つ環境は、カブトムシが、「腐葉土などの中」なのに対し、クワガタは、「朽木の中」です。双方、オスは、武器として「大きな角」「大あご」を持っていますが、カブトムシの戦うスタイルはこの「角」を相手の体の下に入れ、すくうスタイルです、一方、クワガタは、その「大あご」で相手を挟んで投げるスタイルです。どちらも、言われるほど好戦的ではありません。ただ、私見では、カブトムシより、クワガタの方に気性の荒い種が多いように思います。（「昆虫博」で手にすることもできるのですが、クワガタは、危ないからダメ！という種が多いです。）どちらも夜行性の昆虫なので、捕まえるにはトラップが……。などと思うより、存外、街灯などの下に落ちていることも多いです。（白井中では、音楽室のベランダが、最も捕獲量が多いです。でも、……。）双方に、天敵は鳥などです。（白井中では、よく、カラスのご飯になっています。自然の摂理、仕方ありません。）

最後におまけです。カブトムシ界の王者「ヘラクレスオオカブト」知っていますか？

「角」まで入れると、最大180ミリメートルにもなる大型のカブトムシです。その「角」の内側には、茶色の細かな毛がびっしり生えています。（触ってみると、結構ふさふさです。体験者談）中でも大きいものを「ヘラクレスヘラクレス」と呼ぶことがあります。また、クワガタには、まるで、宝石のように輝く「ニジイロクワガタ」がいます。この「虹色」は、以前「ハナムグリ」でも紹介した「構造色」です。いずれも本物には、（今年は開催が危ぶまれますが、）成田山新勝寺の書道美術館2階で開かれる「世界の昆虫博」で出会えます。また、「ものすごい図鑑」で検索すると、今日紹介したカブトムシをはじめ、いろいろな昆虫の画像を回転させながら調べることができます！バッジを集めてマスターになることもできます！結構楽しいですよ、試してみてください。

